

2019年度後期

NITE講座(シラバス)

10月9日更新

科目名	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識	拠点 (開講機関)	メイン会場 大阪・コスモスクエア サテライト会場 東京・幡ヶ谷、 仙台、名古屋、金沢 (製品評価技術基盤機構)	講義日時	11月13日(水) 9:50~17:20 11月14(木)、15日(金) 10:00~17:20
科目概要(300字)	化学物質は私たちの生活の身近なあらゆるところで利用されています。私たちが化学物質の恩恵を享受するためには、化学物質の性質や使用するリスクを正しく理解し、行政、企業、市民が一体となって、化学物質管理を行うことが大切です。本講座では、化学物質管理に携わる方々が実践で役立つよう、化学物質のリスク評価や具体的な事例の紹介、化学物質管理制度や諸外国の状況など、化学物質管理制度全般についてその背景とともに解説します。普段触れることが少ない消費者とのリスクコミュニケーション手法についてもワークショップ(実習)を行います。本講座は、企業等で化学物質管理の実務に携わる方、今後携わる方や、化学物質のリスク評価やリスク管理にご興味のある方を対象とします。				

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	時間	開講場所	講師	所属
オリエンテーション	※		本講座の進め方、注意事項などについて説明します。		9:50~10:00		事務局	NITE
日本の化学物質管理政策	1※	化審法の運用とその概要	「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)の運用における基本的な考え方について、法律の概要とともに解説します。特に、化学物質ごとの各種届出とその情報の活用方法等について紹介し、理解を深めます。また、化審法の最近の動向についても紹介します。	11月13日(水)	10:00~11:30	製品評価技術基盤機構 (メイン会場 大阪) (サテライト会場 東京、仙台、名古屋、金沢)	松下 一徳	経済産業省 製造産業局 化学物質管理課
	2※	安衛法に基づく化学物質管理の考え方と留意点	「労働安全衛生法」(安衛法)に基づく化学物質管理について、法令の概要、考え方とともに、管理上留意すべき点などについて、現在企業における化学物質管理において生じている課題とともに解説します。また、最新の行政の動きについても紹介します。		11:40~13:10		中村 宇一	厚生労働省労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課
	3	化管法の概要とPRTRデータの活用方法	「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(化管法)における、排出量報告・集計・公表制度(PRTR)や化学物質提供時の情報提供制度(SDS)の概要を解説し、国が公表するPRTRデータの活用方法を紹介します。これにより、自主管理の方法に関する理解を深めることができます。		14:10~15:40		近藤 啓子	NITE 化学物質管理センター リスク管理課
化学物質管理と情報	4	化学物質管理に関する情報	化学物質管理において、化学物質の法規制や有害性の情報を得ることは重要です。NITEでは、法規制や有害性の情報に関するデータベースを提供しており、これを使った情報の取得方法について解説します。		15:50~17:20		正木 啓仁	NITE 化学物質管理センター 情報業務課
リスク評価	5	化審法における分解性及び蓄積性評価	化審法の新規化学物質の届出にかかる生分解性試験、生物蓄積性試験、高分子フロースキーム試験の概要を説明し、具体的な判定事例を紹介します。	11月14日(木)	10:00~11:30	製品評価技術基盤機構 (メイン会場 大阪) (サテライト会場 東京、仙台、名古屋、金沢)	竹内 健祐	NITE 化学物質管理センター 安全審査課
	6	有害性評価(人健康影響)	化学物質のリスク評価を実施するには有害性の評価は必須です。特に人への有害性評価は、通常、実験動物等の毒性知見(情報)を利用して行われます。GHSに基づいた有害性分類を実施するための、毒性情報の種類とデータの信頼性/質を概説すると共に、毒性データを評価する際の要点について学びます。		12:30~14:00		森田 健	NITE 化学物質管理センター 安全審査課
	7	有害性評価(生態影響)	化学物質の動植物に対する有害性の評価方法を学びます。化学物質の有害性クラスの付け方など評価の実務に加えて、評価方法の背景にある生態リスク評価の考え方について紹介します。		14:10~15:40		加茂 将史	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員
	8	消費者製品に含まれる化学物質のリスク評価	身近な消費者製品に含まれる化学物質に対し、製品の使用などに伴う消費者の暴露及びリスクの評価方法について解説します。消費者用製品に含有する化学物質のリスク評価方法の概要を理解することを目的とします。		15:50~17:20		藤原垂矢子	NITE 化学物質管理センター リスク評価課
	9	化学物質の暴露評価とリスク評価	化学物質の安全性を判断するには有害性だけでなく、化学物質からの暴露量を知ることが重要です。環境を通じて受ける暴露量や、それを用いてリスク評価を行う方法を解説します。環境を通じた化学物質の暴露量からリスク評価を行う方法の概要を理解することを目的とします。		10:00~11:30		玉造 晃弘	NITE 化学物質管理センター リスク評価課
	10	in silico評価手法の活用	化学物質の安全性評価における動物実験は世界的に削減の流れにあり、化審法や欧米の規制行政では、動物実験代替法の1つであるコンピュータを用いたin silico評価手法が活用されています。化学物質の安全性評価で活用されているin silico評価手法の概要と規制行政での活用状況について紹介します。		12:30~14:00		青柳 智子	NITE 化学物質管理センター 安全審査課
海外の化学物質管理	11	国際的な化学物質管理	化学物質がもたらす悪影響を最小化するために国際的な化学物質管理に関する取組が進められています。これを踏まえた国際的枠組み、欧米の化学物質管理制度の概要及びアジア諸国におけるNITEの取組み等について解説します。化学物質管理に関する最新の国際動向や、諸外国の制度の理解を深めることができます。		14:10~15:40		安藤 征史	NITE 化学物質管理センター 計画課 国際・企画室
化学物質管理と情報	12	リスクコミュニケーション(ワークショップ)	社会全体で化学物質を適正に管理するためには、関係者間で情報を共有し、理解を促進することが不可欠であり、それを実現する手法の一つがリスクコミュニケーションです。企業におけるリスクコミュニケーションの基本的な考え方、その手法や、事例について知るとともに、ワークショップを通じリスクコミュニケーションを体験します。		15:50~17:20		竹田 宜人	NITE 化学物質管理センター 調査官

※ 初日の開始からNo.2までの講義は東京をメイン会場として、以後No.3からNo.12の講義は大阪をメイン会場として各会場へ中継します。初日のみ、お昼休みが13:10~14:10となります。2~3日目のお昼休みは11:30~12:30です。

取纏め者  
化学物質管理センター 計画課 片岡・大塚